

住民の目で活動チェック

27 議会ウォッチ

実践! 地域の再生

「自治体議会改革フォーラム」呼びかけ人代表
法政大法学部 廣瀬克哉教授が語る

市民や議員、研究者らでつくる「自治体議会改革フォーラム」の呼びかけ人代表で、地方自治体の議会事情に詳しい廣瀬克哉法政大法学部教授に議会ウォッチの意義などを語ってもらった。



適切評価やる気に

首都圏を中心に自らのまちの議会を傍聴する動きが十数年前から広がり、ここ数年活発になっている。

リーダーは、現役を引退した世代。仕事をしていた間は地域の政治や行政とは無縁だったが、引退して地域で暮らすうちに、自治体が必要とする住民の思いやニーズに応えていないことに気付く。とりわけ議会が的外れな行動をしているように見え、議会ウォッチに取り組み始める。

ところが議会に行く

と、全く面白くない。議事が段取りだけの儀式と化し、議論が無いからだ。一般質問や代表質問では、あらかじめ職員が書いた質問と答弁を、議員と首長がただ読み上げる、というのも珍しくない。

ほとんどの議員は、自治体の役に立ちたくて志したはずだが、議会に入ってから、支援者以外の住民との対話は少ないから、意識をくみ上げられず、満足な質問ができない。例えば、議員が地元

の声を受けて「道路を造ってほしい」と執行部へ求めるだけなら、口利き役でしかない。他の地域と比較した上で「こんな基準で道路を造る優先順位を決めているのか」と質問すれば、自治体全体に関わるシステムを問いたすことになる。突き詰めていけば、執行部の不合理な選択が浮き彫りになる可能性もある。

議会ウォッチに求められるのは、「議会の批評家」だ。優れた質問を見極め、評価してほしい。

議員も人間だ。議員の行動に腹立たしいことが多い。しかし、議員が変れば議会も変わる。議会傍聴に行くことで、自分自身のためにも

を傍聴できる」と視聴者を紹介。メールマガジンで傍聴記も発信する。仕事を待つ現役世代にとって、平日の日に開催される議会の傍聴は難しい。神奈川県川崎市のグループは、議員の広報を勝手連的に行っている。

今年16日の日曜日、JR川口駅前の広場で開かれた「ボランティア祭り」。会にはモニターを持ち込み、今年始まった市議会のインタネット中継映像を上映した。ちらしを配り、「自宅に居ながら議会

川口市(埼玉)と川崎市(神奈川)のグループ



「身近なテーマが話し合われていますから」と市議会中継の視聴を呼び掛ける「議会基本条例を考える会」の伊田代表(右)と埼玉川口市

と委員会全ての議事録を分担し、平日の夜や週末、自宅で見守る。議員一人一人の質問の傾向、陳情・請願への対応を分析する。

一昨年6月に発足。昨春秋に1500名に及ぶ「市民による川崎市議会白書」を作成し、ホームページで公開した。今年も作業を進めている。吉井代表は議員の質問で有益なのは全体の1割程度。議会をよくなっていくには、議会活動の批評が大切だ」と話す。

ネットで紹介、議事録分析

「せつかく始めたの。会場での傍聴だけでは、議員から敬しに遠ざけられる。前向きに評価されれば「よし次も」とやる気が出る。埼玉川口市などでは、適切な議論と議員の努力が車の両輪となり、真剣な議論が行われるようになってきた。

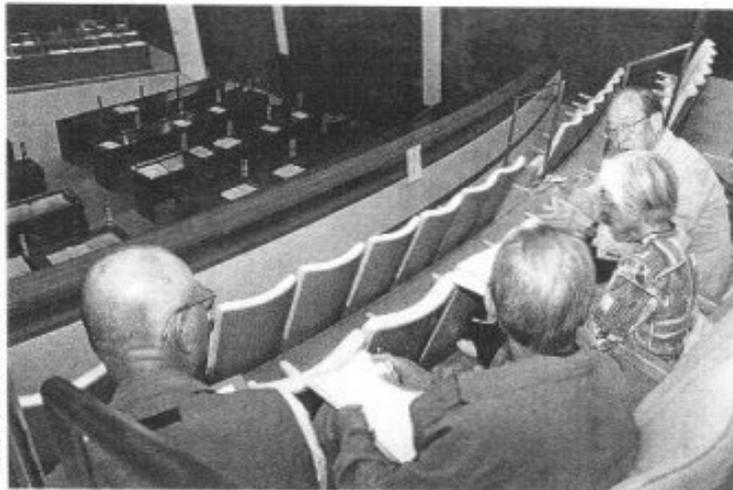
「川崎市議会を語る会」(吉井俊夫代表、会員13人)。吉井代表(63)を含め、半数以上が働きながら参加する。

メンバーは、本会議

「議会は本当に役に立っているのか?」。こんな不快感を抱く住民が少なくない。首都圏を中心に、わがまちの議会の傍聴する住民の議会ウォッチ活動が活発化している。自らの目と耳で議員の活動を確かめ、ときにほめ、

ときに叱咤し、首長や行政の監視、政策立案という議会の使命をきちんと果たしてもらおうという試みだ。先進地の取り組みから、住民と議会のよりよい関係を考える。
(藤岡慎吾)

相模原市(神奈川)



市議会の昼休み、傍聴席で一般市民の感想を話し合った赤倉代表右側から相模原市議会をよくする会メンバー。神奈川県相模原市

9月下旬、神奈川県相模原市立、傍聴席では男女4人、原市の市議会議場。午前9時が真剣にメモを取り続け、時半に開会すると、一般市民が入れ替わり、A議員は「〇〇公民館の

エアコンが壊れた。早く対応を」と、B議員は「市内の病院でも緩和ケアに取り組むべき」と市執行部に迫った。

赤倉昭男さん(75)がメモの手を休めたため息を吐く。「Aさんは公民館関係者の参考にしてもらうため、全前に公表した。結果は13人が焼き付いている。」

傍聴して議員の通信簿

が支持母体。Bさんの実家は病院。2人とも当選以来似たような質問ばかり。もっと市政全般に目を向けてもらわないと……

都心から電車で1時間。政令市・相模原市は東京のベッドタウン、人口72万人、市議会議員52人で、岡山市とほぼ同じ規模。赤倉さんは、市民でつくる議会ウォッチグループ「相模原市議会をよくする会」の代表を務めている。

議員名	所属	得票数	投票率	定数	得票率	得票率差	得票率差率	得票率差率率	得票率差率率率
赤倉昭男	自由民主党	13,000	45.2%	15	86.7%	41.7%	27.0%	31.1%	31.1%
...

相模原市議会をよくする会が今年発行した議会通信簿や会報。高評価の市議は通信簿を独自に刷り増して配布したという

「市民が行動すれば議会は変わる」と、赤倉代表は言う。「議場でまじめな議員こそが評価されるべきだ。今後市議会をしっかりとチェックして市民に伝えたい」

1999年に結成された議員実名だ。内の議会ウォッチ活動の草分け。会員86人、自治会役員や福祉問題で市との交渉経験を

「不可」(50~31点)で、1人は「落第」(30点以下)。4人に1人以上に「議員失格」の判定を下した。

「あまりにひどかった」。赤倉代表は会の発足当時、初め

現役時代は都内で働くサラリーマン。市役所の場所さえ知らなかった。定年少し前から自治会長を引き受けると、自治会は市の便利な下請け扱いで、意見は反映されない。「その分、市議が市政の監視役として頑張ってくれている

論評を加えて会報を作り、公民館へ置く。市議選前には、「議会通信簿」を発行。投票回目の通信簿は今年選挙戦で傍聴した議場の光景が目に

活動13年目。議場での議員の問取りや私語は劇的に減った。しかし、質問は今もさまざまなデータの確認などが大半を占める。他の自治体に劣る行政分野の指摘や、成果が不十分な事業の改善を求める質問は少ない。

今春、通信簿4千部はすぐに無くなり、全文を掲載したホームページへのアクセスは過去最大の1・3万件に上った。会の申し入れで、議会運営委員会の公開や本会議と委員会の審議資料の貸し出しも実現した。